

総合計画体系	まちづくりの目標		環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策		快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	交通政策課
	施策		公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2138
	基本事業		目指す都市構造と整合した都市交通システムの構築	事業実施主体	市	
	事務事業		地域公共交通再編事業	事業期間	平成 28年度～令和 5年度	

【事業全体概要】

事業の概要	持続可能な公共交通のネットワークの再構築を目指すため、平成31年3月に改定した「高松市総合都市交通計画」の基本方針に沿って、令和3年度に改定した「高松市地域公共交通計画」及び「高松市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、既存ストックを有効に活用し、新駅整備事業、複線化事業及びバス路線網の再編等を推進する。					
6年度概要	新駅（太田～仏生山駅間）駅舎整備事業（補助金）《市のみ》 新駅（太田～仏生山駅間）駅前広場整備事業 ことடன்琴平線複線化事業（栗林公園～仏生山駅間）（補助金）《市のみ》					
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	2-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）	

【事業の目的】

対象（何を）	鉄道・バス等の地域公共交通
意図（どのような状態にしたいか）	鉄道や幹線道路など既存ストックを有効活用し、新たな交通結節拠点を整備する。鉄道を基軸、バスをフィーダーとすることを基本とし、市全域を対象とした現行バス路線を再編することにより持続可能な公共交通ネットワークを再構築する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
総合都市交通計画推進協議会開催回数	回	3	3	3	3	3

【事業の成果】

	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
	施策に関する市民満足度（公共交通の利便性の向上）	%	目標値	28.1	31.3	34.4	37.5	34.4
成果指標			実績値	22.1	15	18.1		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 各種施策・事業の推進を通した、公共交通の利用に対する機運の醸成を図り、「公共交通の利便性の向上」に係る市民満足度については、前年度に比べて増加したものの、目標値の達成には至らなかった。市民の公共交通への関心や利便性向上を求める気持ちの高まりが、結果に表れていると考えられる。		(目標達成度) (達成度) 52.6% 18点					
成果指標	公共交通機関利用率	%	目標値	16.2	16.3	16.5	14	16.5
			実績値	11.8	13.2	14.1		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 当該指標は、平成19年度を基準年度とし、毎年度一定の利用者増を目標に掲げている。平成20年代半ばから増加傾向にあった公共交通利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した。令和5年度は、1日当たり3,597人増加し、回復傾向にあるが、利用率は14.1%と目標の達成に至らなかった。		(目標達成度) (達成度) 85.9% 29点					

【コストの推移】

指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）
トータルコスト	〔千円〕	222,371	319,373	199,206	937,197
（事業費）	〔千円〕	199,117	300,064	176,625	923,648
（職員人件費）	〔千円〕	23,254	19,309	22,581	13,549

【評価】

評価ランク（A～D）	B	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
大臣認定を受けた「高松市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、バス路線再編に取り組むとともに、「太田～仏生山駅間の新駅整備については、埋蔵文化財発掘調査を行った。 また、タクシーを活用した新しい交通モード「バタクス」の創出に向けた実証事業の運行を継続した。 なお、公共交通利用の需要の少ない地域に対するコミュニティバスの見直しやバタクスの水平展開による公共交通の確保・維持が課題となっている。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向け、ことடன்新駅の早期完成に取り組むとともに、公共交通利用の需要の少ない地域に対するコミュニティバスの見直しやバタクスの水平展開による公共交通の確保・維持に向け、地域住民と協議・調整を図りながら、地域に見合った運行形態を検討する。 また、バタクスについては、四国運輸局と協議・調整を図りながら、「一般乗用」での運行による社会実装を目指す。			

令和 6年度（ 5年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

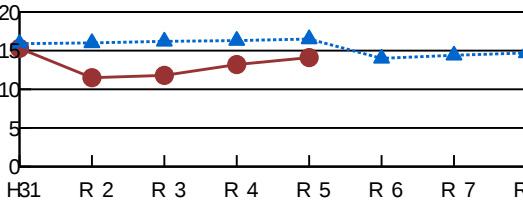
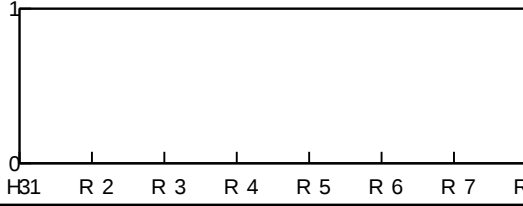
総合計画体系	まちづくりの目標		環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策		快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	交通政策課
	施策		公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2138
	基本事業		目指す都市構造と整合した都市交通システムの構築	事業実施主体	市	
	事務事業		J R 端岡駅周辺整備事業	事業期間	平成 30年度～令和 5年度	

【事業全体概要】							
事業の概要	本市が目指す「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりの考えの下、持続可能な公共交通ネットワークの再構築を目指し、本市西部南地域の核となる駅として利便性の向上と交通結節拠点機能を強化するため、ＪＲ端岡駅の駅舎や駅前広場・国道からのアクセス道路等一体的な整備を推進する。						
6年度概要	関係機関との協議・調整 ＪＲ端岡駅周辺整備事業化検討業務						
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト		事務事業の類型	インフラ・施設等整備		

【事業の目的】							
対象（何を）	鉄道・バス等の地域公共交通						
意図（どのような状態にしたいか）	鉄道や幹線道路など既存ストックを有効活用し、新たな交通結節拠点を整備する。鉄道を基軸として、市全域を対象とした現行バス路線を再編することにより、持続可能な公共交通ネットワークを再構築する。						

【事業の活動】							
活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5	
総合都市交通計画推進協議会開催回数	回	3	3	3	3	3	

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
	公共交通機関利用率	%	目標値	16.2	16.3	16.5	14	16.5
			実績値	11.8	13.2	14.1		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 当該指標は、平成19年度を基準年度とし、毎年度一定の利用者増を目標に掲げている。平成20年代半ばから増加傾向にあった公共交通利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少に転じた。令和5年度は、1日当たり3,597人増加し、回復傾向にあるが、利用率は14.1%と目標の達成に至らなかった。 (目標達成度)	 (達成度) 85.9% 29点						
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
			目標値					
			実績値					
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） (目標達成度)	 (達成度)						

【コストの推移】							
指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）		
トータルコスト	〔円〕	10,344	3,383	10,538	33,462		
（事業費）	〔円〕	0	90	0	24,430		
（職員人件費）	〔円〕	10,344	3,293	10,538	9,032		

【評価】			
評価ランク（A～D）	B	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
令和元年度に取りまとめた基本計画（素案）に基づき、ＪＲ四国と具体的な協議を行い、令和6年度にＪＲ端岡駅周辺整備事業化検討を進めることについてＪＲ四国と合意した。 ＪＲ端岡駅周辺整備事業化検討に当たっては、ＪＲ四国の収益を精査するため、アフターコロナにおける需要予測が必要であるとともに、整備内容の実現可能性の確認が必要となる。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向けて、ＪＲ端岡駅周辺整備事業化検討業務により、ＪＲ四国の収益を精査するため、アフターコロナにおける需要予測を行うとともに、整備内容の実現可能性の確認を行い、ＪＲ四国との合意を経て、ＪＲ端岡駅周辺整備基本構想として取りまとめる。また、国の補助メニューなどを活用した事業スキームを確立するなど財源の確保に努める。			